

平成22年2月

三宅孝典 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 村 脇 義 和
同 池 口 正 英

主論文

Expression of DNA methyltransferase (DNMT) 1, 3a and 3b proteins in human hepatocellular carcinoma

(ヒト肝細胞癌におけるDNAメチルトランスフェラーゼ1, 3a, 3b蛋白の発現)

(著者：三宅孝典、遠藤財範、本城総一郎、広岡保明、池口正英)

平成22年 Yonago Acta medica 掲載予定

参考論文

1. Free jejunal graft reconstruction after resection of neck cancers: Our surgical technique

(頸部癌切除後の遊離空腸再建術：我々の手術手技)

(著者：池口正英、三宅孝典、松永知之、山本学、福本陽二、山田敬教、福田健治、齋藤博昭、建部茂、辻谷俊一)

平成21年 Surgery Today 第39巻 925頁～928頁

審査結果の要旨

本研究は、ヒト肝細胞癌においてDNMT1, 3a, 3bの異常な蛋白発現の意義を調べるために、DNMT蛋白発現と肝細胞癌の臨床病理学的因子および患者予後との関連性を検討した。その結果、腫瘍分化度や肝内転移と関連があり、DNMT3aにおいては門脈浸潤とも関連を認めた。また、DNMT3a、3b過剰発現群は肝細胞癌の予後不良因子であり、さらにDNMT1, 3a, 3bすべての蛋白が過剰発現した群ではさらに予後が不良であることが示された。本研究は、肝細胞癌患者のDNMT蛋白過剰発現は予後不良群の予測因子なることを示し、DNMTが新たな予後マーカーや今後の肝細胞癌治療における標的になり得る可能性も示唆したもので、明らかに肝臓腫瘍学の学術水準を高めたものと認める。